

# 2022生命環境学部案内



生命環境学部は
山梨大学の4番目の学部として
平成24年に誕生した文理融合型の学部です。
この学部で、自然との共生可能な豊かな
地域社会の実現を目指して
いつしょに学び、いつしょに伝統を
作っていきましょう。



生命工学科



地域食物科学科 ワイン科学特別コース



環境科学科



地域社会システム学科 観光政策科学特別コース

FĂGULTY OF LIFE ĂND ENVIRONMENTĂL SGIENGES ~ 自然科学と社会科学を総合的に学べる先進的な学部~

自然との共生可能な豊かな地域社会を実現できる人材を育成します。

生命環境学部は「持続的な食料の生産と供給による地域社会の繁栄を実現するために必要となる生命科学、食物生産・加工、環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政に関し広い視野を持つ人材を自然と社会の共生科学に基づき養成する」ことを基本理念とし、理系3学科(生命工学科、地域食物科学科、環境科学科)、文系1学科(地域社会システム学科)の4学科で構成される学部です。

## 山梨大学

UNIVERSITY OF YAMANAS

# 生命環境学部









## CONTENTS

生命環境学部での学び ― 3

生命工学科(35名) — 5

地域食物科学科(37名) ― 7

環境科学科(30%) — 9

地域社会システム学科(48名) ― 消消 (観光政策科学特別コース)

特別コース — 13

大学院 — 14

その他の情報 一 15

キャンパスライフ — 17

関連施設 — 18

## 生命環境学部での学び!







「大学での学び方」を習得するとともに、社会人として必要な幅広い教養や語学、さらに今後ますます重要になるデータサイエンス等を全学共通教育科目で学びます。さらに、生命環境基礎ゼミなどを含む学部共通科目で問題解決能力を身につけます。



全学共通科目に加えて、新たに専門科目を学びはじめます。 これらの科目間は「ブリッジ科目」によりスムーズに接続で きます。また、地域と連携したフィールドワークなど実験・実 習系の科目を通じて実践的知識と経験を深めていきます。



生命・食・環境・経営などの専門知識を深く学びます。さらに広範で複合的な問題へチャレンジする意欲の高い学生のために、他の学科の一部専門科目を履修できる相互乗り入れ制度を設定し、当該科目を履修することで、より幅の広い専門性を獲得します。



専門特別科目の卒業研究では実践的専門職業人として必要な高度な問題解決能力を身につけます。また、特別講義などを履修し、大学院へ向けた専門知識についても深く学びます。



# 生命の仕組みを解き明かす 最先端バイオ技術を学ぶ!

最先端のバイオサイエンスを基盤に 高い創造力をもって未来のバイオ産業を 担うことのできる人材を養成します。

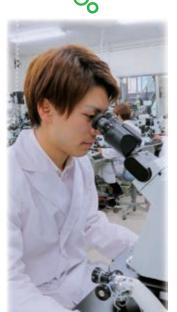


#### 生命工学科における学び

実験実習を重視した実践的教育体制

■生命工学の基礎知識・技術をしっかり学ぶ。

生物学概論、生命研究倫理学、基礎生化学、基礎微生物学、生命科学・医学のデータ解析基礎、生命工学データサイエンスなど



#### ■バイオサイエンス、バイオテクノロジーを深く学ぶ。

◎バイオモデル、微生物・食品衛生モデル、メディカルデータサイエンスモデル(下図参照)の

授業科目を履修することで、各分野の最先端の知識を身につける ○化学・生化学・微生物学・分子生物学・細胞生物学・発生工学の各実験を通じて実験スキルを修得する								
	興味と関心	得られる知識・スキ	ル・開講科目	進路·就職先				
バイオモデル	●医療産業・食品分野で 活躍する技術者 ●バイオテクノロジー	●細胞培養とバイオプロセスの技術 ●細胞、遺伝子、発生の知識と応用 ●食と健康に関する知識	【分子発生·幹細胞生物学】 【分子生物学】【発生工学】 【細胞生理学】【生物化学工学】	医療関連産業 公務員等 製薬産業 大学院進学 食品産業				
微生物・ 食品衛生モデル	<ul><li>発酵産業・食品分野で 活躍する技術者</li><li>バイオテクノロジー</li></ul>	<ul><li>微生物と食、バイオプロセスに関する知識と技術</li><li>食品衛生に関する知識</li><li>細胞、遺伝子の知識と応用</li></ul>	[応用微生物学] 【生物化学工学】 【分子生物学】【食品加工学】 【食品衛生学】【発酵工業学】	発酵産業 公務員等 食品産業 大学院進学 製薬産業				
メディカルデータ サイエンスモデル	<ul><li>データサイエンスの スキルを生かして医薬分野で 活躍する技術者</li><li>医学・薬学</li></ul>	<ul><li>データサイエンスに関する 知識とスキル</li><li>医学・薬学に関する知識</li><li>細胞、遺伝子、発生の知識と応用</li></ul>	【生命統計情報学】 【バイオインフォマティクス】 【基礎薬理学】【基礎免疫学】 【分子生物学】	医療関連産業 公務員等 製薬産業 大学院進学 情報産業				

#### ■有用物質生産、食品生産・加工などの分野の技術者・研究者になる。

- ◎食品系製造業(食料、飲料、醸造等) ◎化学系製造業(医薬、化粧品、香料など)
- ◎医療系産業(機器、分析など) ◎不妊治療施設・クリニック(胚培養士など) ◎環境産業(廃水処理、環境分析)
- ○農業関係法人(JAなど) ○学術・研究機関 ○地方公務員 ○国家公務員

# 生命工学科





# **Check Point!!**

- ■生命工学科では、指定単位を修得することにより、卒業時に食品衛生管理者およ び食品衛生監視員の任用資格が得られます。さらに令和3年度からは基礎医学系及 び生命情報科学系の授業を新設し、医学薬学などへの応用や生命科学全般におけ るデータサイエンスの知識を深められるようカリキュラムが充実します。
- ■多くの卒業生はバイオサイエンス関連の様々な分野で活躍しています。主な就 職先は生命工学科ホームページ

(https://www.bt.yamanashi.ac.jp) をご覧ください。

■本学科につづく大学院に修士課程及び博士課程が設置されており、毎年卒業生 の約7割は修士課程へ進学します。

## 専門科目名などの詳細は学科ホームページで。https://www.bt.yamanashi.ac.ip

生命工学科では、分子生物学、生化学、細胞生理学といった生命科学の基礎を身につけるとともに発生工学や幹細胞生物学、応用 微生物学、バイオインフォマティクスなどを始めとする最先端の生命科学・生命工学を学ぶことで、再生医療(iPS細胞、ES細胞、 クローン技術)、生殖補助医療(体外受精、発生工学)、食料生産・食品衛生(機能性食品、醸造、発酵工業)、健康増進(医薬品、有 用微生物、化粧品、香料)、バイオエネルギー、環境保全などに関する新しい技術を創出する能力を身につけることができます。

#### ■研究室紹介

生命工学科では下記の教員が3つの分野で先端的な研究を行っています。 4年次に研究室に所属し、学部の集大成として卒論研究に取り組みます。 半数以上の学生が大学院に進学し、より高度な研究に携わっています。

#### 動物発生・細胞培養工学分野

#### ★細胞培養工学研究室

**★発生工学研究室** 

教授/黒澤 尋 准教授/升井 伸治 助教/大貫 喜嗣

培養工学の観点から、iPS細胞やES細胞などの多 能性幹細胞を使った再生医療の実用化を目指して います。多能性幹細胞から効率よく目的細胞をつくり 出すため、細胞の増やし方(増殖法)や心筋などの機 能細胞に変化させる技術(分化誘導法)、さらには細 胞の品質評価法の開発を行っています。

#### 教授/若山 照彦 助教/若山 清香・大我 政敏・藤本 由佳

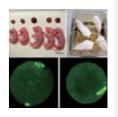
マイクロマニピュレーターによる顕微授精技術やク ローン動物の作出は、再生医療や農業、さらには宇宙 時代の生活を大きく変える可能性を秘めています。こ れらの技術は発生工学と呼ばれるもので、私たちはこ の技術を駆使して従来不可能だった実験に取り組む と同時に、エキスパートの養成を目指しています。



3

★胚環境研究室

胚の発生は、卵子の老化や培養環境、また「核の 質」などの要因により大きな影響を受けます。また胚 や胎児の環境が個体の遺伝子発現や性質にまで 影響することも明らかになりつつあります。私達は、哺 乳類の個体発生や個体の性質に影響を及ぼす胚 の仕組みを明らかにする研究を行っています。



#### ★発生ゲノム科学研究室

教授/幸田 尚 助教/志浦 寛相

初期発生における遺伝子発現の制御、胎盤形成の 機構の解明など、人を含めた哺乳類の初期胚発生 に重要な過程を分子生物学的なアプローチで研究 を行なっています。また、次世代シーケンサーを使った 単一細胞の遺伝子発現解析やゲノム解析のための 新規技術の開発も同時に行なっています。



#### 微生物機能·生態応用工学分野

#### ★応用微生物学研究室①

准教授/山村 英樹 助教/小久保 晋

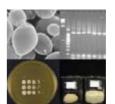
抗菌・抗がん剤などの医薬品原料を生産する放線菌 を日本各地・世界から探索しています。得られた放線菌 は、ゲノム解析や新種提案、抗生物質の同定、植物栽 培への応用研究を行っています。医薬・食品業界で必 要とされる微生物の取り扱い技術や遺伝子解析、抗 菌活性試験などの技術を身につけられます。



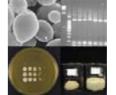
## ★応用微生物学研究室②

准教授/中川 洋史

有用微生物である酵母は発酵食品や医薬品、化粧品の 製造など幅広い産業に用いられ、さらに真核生物のモデ ル生物としても重要です。一方で、産業界では微生物の 機能向上が課題となっています。私達は酵母を用いて、微 生物の機能を高めるための新しい育種技術の開発や、ス



トレス耐性を強化するための研究に取り組んでいます。



#### ★微生物利用工学研究室

准教授/大槻 隆司

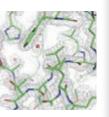
バイオの世紀と呼ばれる現在、人類が地球環境と 共存して発展するにはバイオ技術が必要です。私 達は生物の未知の能力を発掘し、その機能をタンパ ク質や遺伝子のレベルで解明し、バイオマス活用技 術へ応用することで未来を豊かにする研究を行って



ナノバイオ・医薬工学分野

#### ★蛋白質構造生物学研究室

タンパク質は生物の主要成分の一つであり、酵素 や物質輸送、シグナル伝達など、生物の多彩な機 能を実現する魅力的な分子です。私達はタンパク 質の複雑な立体構造をX線結晶構造解析法を使っ て決定し、生物の仕組みを理解する研究を行ってい



#### ★ナノバイオテクノロジー研究室

准教授/新森 英之

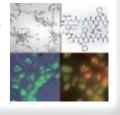
近年、生体の機能に倣った科学はナノバイオテクノロジーと いう新分野へ発展しています。そこで我々は、生体機能を利 用した新規な機能性材料・薬剤の開発を目指しています。 具体的には、多彩な物質工場である生物をミクロな科学的 視点で解き明かし、人に役立つ医薬品やバイオセンサー、バ イオマシン、生体適合材料等の開発研究を行っています。



#### ★医薬分子工学研究室

助教/川上 隆史

私達は独自のケミカルバイオロジー技術を用いて、ガン、自己 免疫疾患、動脈硬化症、アレルギー性疾患、アルツハイマー 病、糖尿病、コロナウイルス肺炎などの様々な病気に対する 新規ペプチド医薬品(分子標的治療薬)を開発する研究を 行っています。また、それらの医薬品を発見するための新しい ケミカルバイオロジー技術を開発する研究を行っています。





## 地域食物科学科(37%)

(ワイン科学特別コース)



## 人類の生存に欠くことのできない 食物について学ぶ!

地域性に富むワイン科学特別コースを学科内に設置。

カリキュラムの構成 進路を見据えて学ぶ

#### 地域食物科学科・ワイン科学特別コースにおける学び

基礎から応用、そして実践に繋がる新しいカリキュラム



#### ■食物の基礎知識・技術をしっかり学ぶ。

○果樹、農作物の栽培 ○微生物学 ○食品製造学 ○生物学 ○栄養学



- ○農産物の生産 ○食品製造の科学
- ◎食品微生物の分子生物学的解析と利用
- ◎食品成分の栄養学と有用成分の利用

### ■ワインの科学を深く学ぶ。

(ワイン科学特別コース)

◎ブドウ栽培、ワイン製造の技術

◎ワインの成分の分析と利用

### ■食物科学や農学の知識・技術を食料問題の解決に活かす人材になる。

- ○食品産業、醸造産業 ○製薬産業 ○ワイン産業 ○果樹栽培業
- ○食品加工産業 ○農業生産関連産業 ○大学院 ○国家・地方公務員

# 地域食物科学科





## **Check Point!!** 00

### ■人類は有史以来、食品を作り続けてきました。かつてないスピードで進む環境破 壊、そして人口増加、食物を取り巻く状況は大きく変化しています。地域食物科学科 では、先端的な科学的手法を駆使した果樹や野菜の生産やワイン製造などの加工を 実践し、食料問題の解決や食物の利用性と機能性を高める教育を行います。

■教育モデルとして「ワイン科学特別コース」を設置し、ブドウ栽培・ワイン製造を専 門に研究する「ワイン科学研究センター」の歴史と実績を活かして、専門的なワイン 製造技術を教育しワイン製造業界で活躍できる人材を養成します。

地域食物科学科は、食物 (食品製造、食品栄養、園芸) およびワイン製造に関する知識・技術 (微生物、機能成分、果実遺伝子) を学べ る新しい学科です。バイオテクノロジーを駆使した果樹や野菜等の農産物の栽培、食品製造の科学的理解、栄養・有用成分の解析と 利用、ワイン製造技術等を課題に、食物生産から食品製造までのプロセスを包括的に学びます。

#### ■研究室紹介

地域食物科学科では、4年次に研究室に配属され、食物やワインに関する卒業論文研究 に取り組みます。下記の6つの研究室があります。園芸学、食品製造学、食品栄養学、果実 遺伝子工学、機能成分学、発酵微生物工学について研究を行います。

**5**\_\_\_\_\_\_

#### 安心して食べられる野菜や果物の安定生産を目指して

#### ★園芸学研究部門

教授/村松 昇 准教授/矢野 美紀

食は、私達に心身の健康と豊かな生活をもたらす大 切な存在です。しかし、近年、食の安全を脅かす事件 や、異常気象による農作物被害が多発し、多くの人が 食に関する不安をつのらせています。当研究室では、安 全な食物を安定的に供給するシステムの構築を目指 し、情報通信技術の農業への利用を検討しているほ か、植物工場の利用、これまで生産が少なかった果樹 品目の栽培など、最新技術を用いた新たな農業に向け た研究に取り組んでいます。また、農薬や化学肥料を 使わず 十壌微生物の働きを高める野菜の栽培法の 研究も行っています。



#### 食品製造を科学的に理解し、実践するフロンティア

#### **★食品製造学研究部門**

教授/舟根 和美 准教授/三木 健夫

食べ物のおいしさ、食べやすさに直結する、食品の食感 や製造方法に関する研究をしています。様々な加工条件に よる食品の性質を、食品の物性と構造の両面から解析し、 新たな食品価値を創造します。さらに酵素を利用した新しい 食品素材の開発にも取り組みます。

また、酵母の遺伝子に関する研究を行っています。発酵 食飲料製造に欠かせない「酵母」の性質は、遺伝子の相互 作用によって生じています。遺伝子を構成するDNA配列を 多面的に解析し、様々な情報を得ることにより「酵母」の持 つ高次機能についての研究(高浸透耐性、アミノ酸資化 性、細胞外タンパク質機能等)を行っています。

栄養素の健康維持に対する役割を研究し、地域に貢献する



#### 美味しいブドウをつくり、新しい栽培法を研究する

#### ★果実遺伝子工学研究部門

教授/鈴木 俊二 准教授/山下 裕之 助教/榎 真一

果実遺伝子工学研究部門では、「美味しいブドウをつ くる・手間をかけず栽培する」をキーワードに、基礎研究お よび応用研究を行っています。「美味しいブドウをつくる」 ために私たちは分子育種と古典的な交雑育種を組み合 わせて、香りに特徴をもち、着色性に優れ、高品質でか つ病気に強い理想的なブドウの育成を目指しています。 また、「手間をかけずに栽培する」ためにはブドウの樹の 形にこだわり、省力的、高品質安定生産が可能となる新 整枝・せん定法を研究しその有利性を明らかにしていま す。さらにもともと自然界に生息する微生物を活用してブ ドウを病害虫などから守る農薬の開発も行っています。



## **★食品栄養学研究部門**

私たちは、毎日食物から多くの栄養素を摂取して生きていま す。これらの栄養素には、エネルギー源となる栄養素(糖質、脂 質、タンパク質など)、体を形作る栄養素(タンパク質、ミネラルな ど)、代謝を助ける栄養素(ビタミン、ミネラルなど)などがあります。 健康な生活を営むために、これらの栄養素の適正な摂取が必 要となります。さらに、近年では、これらの栄養素に区分されない 食事因子(食物繊維や、抗酸化食品成分など)も私たちの体に とって大切な役割を担っていることがわかってきました。食品栄 養学研究部門では、食生活と密接に関連している疾患(生活 習慣病やアレルギー疾患)の予防を日標に、栄養素および食 事因子の役割を探求することを目標に研究を行っています。



#### ワインの「おいしさ」を科学する

#### ★機能成分学研究部門

教授/奥田 徹 准教授/久本 雅嗣 助教/斉藤 史恵

ワインの「おいしさ」は「色」「香り」「味」が三位一体 となってつくりだしています。すなわち、「おいしい」ワイン を造るためには、「色」「香り」「味」に関わる成分の化 学構造や性質、生成する要因を科学的に解明すること が重要です。私たちは、醸造中や熟成中に、どのような 成分がどのようなメカニズムで抽出・生成されるのかを 解析し、より優れた醸造技術への応用を目指していま す。また、人がおいしさを感じるメカニズムについても注 目しています。嗜好性や生体調節効果を持つ化合物を 利用することで、より魅力のあるワインを造ることを目指 し、研究に取り組んでいます。



#### 発酵を科学し、豊かな食生活に貢献する

#### ★発酵微生物工学研究部門

教授/柳田 藤寿 准教授/岸本 宗和・乙黒 美彩

ワインをはじめとする発酵食品の製造において、酵母 や乳酸菌は様々な成分の生成を通して発酵食品の品 質に大きな影響を与えています。我々はワイン醸造環境

(ブドウ園、ワイナリー)や自然界 (湖、花)から酵母や乳酸菌などの 有用微生物を探索し、香気成分や 代謝産物など微生物の持つ未知 の能力を解明することで、ワインや 発酵乳飲料など個性豊かな発酵 食品の開発を目指し研究を行って います。







## 環境科学科(30%)



# 自然環境の仕組みを 解き明かせ!

豊かな自然環境を 次世代に残すための知識と技術を学ぶ。

カリキュラムの構成 進路を見据えて学ぶ





### 環境科学科における学び

環境科学科には、しっかりとした理系教養の基礎を身につけて 自然の仕組みを解き明かし、次世代に豊かな環境を残していくために 必要な専門的な知識・技術を得るカリキュラムが用意されています。

#### ■環境科学に関わる理系教養の基礎をしっかり学ぶ。

◎基礎物理学 ◎基礎環境化学 ◎牛物学概論 ◎基礎数学 ◎データサイエンス入門 ◎牛命環境基礎ゼミ

◎牛物資源論 ◎牛物資源実習 ◎環境科学基礎実験 ◎自主ゼミ(=学牛が自主運営する実験活動・勉強会) など



**Check Point!!** 

○大気環境科学 ○多様性生物論 ○水循環学 ◎水圏科学 ◎土壌科学 ◎環境科学演習 など

### ■環境科学に関わる 専門的な技術を習得する。

◎河川実習 ◎大気科学実習 ◎土壌学実習 ◎環境生物学実習 ◎環境モデリング実習 など





### ■環境科学に関わる専門的な知識・技術をもち、 環境問題の解決に活かす人材になる。

◎環境コンサルタント業や環境分析業等の環境産業、自治体や各種公共団体に就職

○専門性を高めるために大学院へ進学(卒業生の約4割が大学院に進学)

### 生命環境学部 環境科学科 ホームページ





https://www.ev.yamanashi.ac.jp

### ■環境問題は私たちの暮らしに関わる課題が複雑に絡み合い、一人の専門家の能力で はとても対応しきれなくなっています。チームとして問題の解決に当たる必要があり、 チームがうまく機能するには様々な分野の基礎的な知識を持っている人材や、その連 携をとるコーディネーターも必要です。そこで環境科学科では、個々の専門分野の能 力を持ちつつ、総合的に物事をバランスよく見ることができる人材、思いやりを持って 人々の将来を考えられる人材を育てます。

教育・研究指導を担当する教員は「環境科学」に係る幅広い分野のエキスパートにより構成されており、 その研究成果は国内はもちろんのこと、国際的にも高く評価されています。各教員の研究テーマは以下の通りです。

### ■環境科学科の研究テーマ

#### 大自然に潜む「カタチ」の不思議

#### 教授/島 弘幸

動植物や大自然の景観が私たちに魅せる美 しい「カタチ」を科学的に調べています。その 不思議な形成メカニズムを解明することで、大 自然に横たわる新しい科学法則の発掘を目指 しています。

#### 流域の物質循環と健康・生活

#### 教授/西田 継

森林・農地・都市の水と栄養のバランス、地下 水の涵養と汚染の仕組み、感染症、水や農業 と福祉・経済の関係について、山梨・アジア・ アフリカ・欧州の各地で調査と研究を行ってい



### 森林生態系における物質循環

#### 助教/向井 真那

樹木はどのように効率よく土壌から栄養を獲 得しているのでしょうか。様々な森林を比較し ながら、直接は見えない地下部に着目し、土壌 と樹木の相互作用の観点からその戦略に迫



#### 植物に対する環境ストレスの影響

#### 助教/黄瀬 佳之

大気汚染や気候変動が植物に及ぼす悪影響 の解明とその対策に取り組み、食料生産や温 暖化防止などの植物が有する有益な機能の 維持・発揮を目指しています。



#### 土壌微生物の生態と有効利用に関する研究

#### 准教授/片岡 良太

土壌微生物の機能を利用して環境を制御す ることを目標に研究を行っています。室内実験 と屋外での調査・研究を互いにフィードバック させながら自然の実態に肉薄したいと考えて います。



#### 新しい微生物資源の開拓と利用

#### 准教授/田中 靖浩

培養が難しい未知微生物の分離培養を可能 とする技術の開発、取得した未知微生物を用 いた環境保全や浄化、有用物質生産等に関 する研究を行っています。



#### 環境微生物を利用した水処理技術

#### 助教/亀井 樹

微生物の力を用いた排水・上水処理技術を研 究・開発し、環境に配慮しながら私たち人間が 健康で安心・安全な生活を持続できる社会の 構築を目指しています。



#### 流域生態系における食物網の構造と動態

#### 教授/岩田 智也

陸一河川一海洋間の物質フローの経路とダイ ナミクスを調べることで、流域における生物群 集の維持機構を明らかにしていきます。



#### 大気中の微量化学成分の動態と環境への影響

#### 准教授/松本 潔

微量化学成分の大気環境中での動態につい てフィールドでの観測に基づく研究を行い、こ れらの成分が気象や気候、生態系に与える影 響の解明を目指しています。



#### 大気および海洋環境を対象とした光学観測

#### 准教授/小林 拓

海の汚れや気候に影響を与える空に舞う微 粒子の量や性質を、宇宙から調べる(リモート センシングといいます)ための基礎的な研究を 行っています。



大気汚染

#### 衛星観測・数値モデルによる河川流量測定

#### 教授/石平 博

数値モデルや衛星観測技術を用いて、世界 の様々な地域における河川流量を推定・予測 する方法の開発に取り組んでいます。



#### 流域〜全球スケールの水循環

#### 准教授/馬籠 絊

衛星・地理情報と数値モデルを駆使して、水 循環と社会の関係性について、流域スケール と全球スケールの2つの視点から研究を行っ ています。





# 地域社会システム学科(48%)

(観光政策科学特別コース)



## マネジメント・プロフェッショナルになる!

文理融合の生命環境学部の中にある「オンリーワン」の文系学科。 経済、経営、法律、政治、政策、地域計画、数理分析について深く学び 地域を「マネジメント」する能力を身につけ、 自然と社会の共生に基づく「持続可能な発展」に貢献する人材を目指します。

カリキュラムの構成 進路を見据えて学ぶ

#### 地域社会システム学科・観光政策科学特別コースにおける学び

社会科学の総合的な知識と数理分析スキルを身につける



- ◎経済学、経営学、法学、行政学、政治学など社会科学の基礎科目
- ◎統計学、基礎数学など、計量的分析方法の基礎科目
- ◎共生科学、生命科学、生物資源、環境科学など、自然との共生に関する科目



#### ■経済学、経営学を 深く学ぶ。

- ◎経済学の理論と 経済現象の分析方法
- ◎経営学の理論と
- 企業経営の分析方法

#### ■法学、政治学を 深く学ぶ。

- ◎基本的な法律知識と 法学的な分析方法
- ◎政治学や行政学の 理論と政策過程の 分析方法

### ■地域計画、数理分析 スキルを深く学ぶ。

◎地域計画の理論、 方法、関連計画や政策 ◎統計学や経済数学など、 計量的な分析方法と 管理方法

#### ■観光経営・ 観光政策を学ぶ。

◎観光経営・観光マーケ ティング・観光行政・観 光政策の理論と手法 ◎観光資源を活かした

. .

地域づくりなど

### ■民間企業や行政機関などで地域社会をマネジメントできる人材になる。

◎国家公務員 ◎地方公務員 ◎一般企業(製造業、金融業、サービス業、観光産業、ITなど) ◎シンクタンク ◎起業家 ◎NGO・NPO ◎大学院進学など



地域社会システム学科 ホームページ





## 詳細は学科HPで。 https://www.ss.yamanashi.ac.jp

## **Check Point!!** 00

#### ■地域社会システム学科で、学生は、地域社会のマネジメントに関する専門知識やス キルを体系的に修得するとともに、地域に対する知識とグローバルな知識を両立 させながら、幅広い視野から社会を「マネジメント」する能力を身につけます。

- ■また、観光政策科学特別コースに所属する学生は、地域社会システム学科の専門 科目に加え、観光経営・ビジネス分野および観光行政・計画分野の専門知識を習得
- ■卒業後の進路として、民間企業・官公庁・地方自治体・公益法人・各種団体・大学院進 学など、幅広いものが期待できます。

地域社会システム学科は、生命・食・環境の基礎を理解し、経済、経営、政治、行政、法律、数理、観光などの専門知識を学び、人類が直 面している食料問題や環境問題を社会・経済・行政システムとの関わりにおいて理解し、その諸問題に立ち向かい、地域社会の繁栄 の実現に貢献できる人材を養成します。

## ■ 履修可能な科目群 ■



### 【経済】社会科学入門、財政学

#### 准教授/門野 圭司

政府の経済活動を研究対象とする財政学の学習 を通じて、経済的に不遇な人たちの言い分にこそ 共感できる心と、経済の実態を科学的に理解する 頭脳と、両方を身につけることの大切さを掴み取っ てもらえればと思います。

#### 【経済】マクロ経済学、食料問題とグローバル経済

#### 教授/渡邊 幹彦

マクロ経済学では、国全体が豊かであり続けるた めの経済政策について学びます。食料問題とグ ローバル経済では、この経済政策をグローバル社 会の進展にどのように対応させるのが良いかにつ いて学びます。

#### 【経済】公共経済学

#### 教授/渡邉 靖仁

ミクロ経済学の理論を用い、市場の失敗・政府の 失敗の発生理由と対策を分析し、効率と公平・貢 献原則と平等原則などのトレードオフ関係につい て認識を深め、経済社会を公・共・私の3視点から 把握する力を涵養します。

#### 【経営】経営戦略論、経営組織論

#### 准教授/佐々木 博之

良いマネジメント(経営)ができれば、顧客や従業 員、投資家などの利害関係者に十分な価値を提 供でき、企業は存続・発展します。そのための戦略 と組織づくりについて、最新の研究成果と企業事 例から学びましょう。

#### 【経営】経営学概論

#### 教授/西久保 浩二

経営学を実践的な視点から幅広く学ぶことを通じ て、企業経営を科学的に分析、評価し、そして改 革できる力を身につけます。また、日本企業が持続 的な競争優位に立ち、生存、成長する戦略を学 びます。

#### 【法律】日本国憲法、統治機構論

法学分野の科目の中で、主に憲法に関連する科 目を担当しています。私たちが享有する人権にはど のようなものがあり それを保障するための統治の システムはどのようなものであるべきかについて考

#### 教授/稲田 和也

社会生活上しばしば接することとなる民法を中心 に講義を行っています。主として知識の習得になり ますが、民事法学における思考方法も適宜紹介し たいと考えています。

#### 【法律】行政法Ⅰ・Ⅱ

#### 助教/若生 直志

行政活動が社会の様々な領域に及んでいくにつ れ、その法的コントロールの必要性も高まっていき ます。国民の権利を保護すると同時に、社会を発 展させていくための法制度について考えます。

#### 【政治】政治学概論、環境政治論

政治思想・政治体制・政治システム・民主主義・社 会運動・市民参加など、政治学の基礎知識と考え 方を習得するとともに、生態学的に持続可能な社 会のあり方と政治過程上の諸課題について討論

#### 【政治】国際関係論Ⅰ・Ⅱ

#### 准教授/小松 志朗

国際関係論を基礎から学んで、世界の構造や歴 史、具体的な諸問題について理解を深めます。地 域社会のことを考える時にも、グローバルな視点か ら世界とのつながりを意識できるようになってもらえ ればと思います。

#### 【政治】行政学、地方自治論

#### 准教授/藤原 真史

政治学の一分野である行政学、地方自治論では、 国や地方自治体のさまざまな活動を支える行政資 源(ヒト、モノ、カネ、情報等)やそれらを活用して産 み出される政策について、理論や歴史、現状、課 題等を学びます。

#### 【政策】環境経済政策論Ⅰ・Ⅱ

#### 准教授/喜多川 進

日本のみならず海外の具体的な環境政策の事 例を通して、環境政策の推進・阻害要因および 環境問題解決のための望ましい政策のあり方を 学びます。

### 【計画】地域計画学、地域共生デザイン

#### 教授/大山 勲

都市や農村地域の計画、景観・環境・観光などの 個別計画、商業・交通・集落空間などのデザイン、 法定計画の限界 市民行政協働まちづくりの宝 践など、地域の持続と活性化を進めるための計画 づくりの基礎を学びます。

### 【計画】エネルギーマネジメント、数理計画法

#### 准教授/島崎 洋一

経済経営法律政治政策計画数理 観光

地域社会における望ましいエネルギーの使い方に ついて学習します。行政や企業におけるエネル ギーの導入計画、経営管理を主題とします。身近 な例として、家庭の電力測定演習を行います。意 思決定の手法を理解します。

#### 【計画】経済地理学

#### 准教授/宮川 雅至

地域の社会経済現象を場所・空間に着目して客 観的に分析し、問題解決につなげるための立地モ デルを学びます。土地利用、施設配置、商業立地 などを対象に、モデルを実際の地域に適用するこ とを目指します。

#### 【数理】経済・経営数学、社会数理システム

#### 教授/伊藤 一帆

世の中で起きている現象を数式を用いて表現する ことを数理モデリングといいます。そして、その数式 を分析することにより、複雑な現実の本質が見え てきます。経済現象を中心に、この一連のプロセス を修得しましょう。

#### 【数理】基礎統計学、基礎統計学演習

#### 准教授/平井 寬

あなたが仕事やその他の場で何か新しい提案をし ようとするとき、その提案に説得力を持たせるには どうしたら良いでしょうか。統計学は実際に起きた 結果のデータに基づいた根拠を示すことができる 有力なツールです。

#### 【観光】観光政策論、観光資源保全・活用論

#### 准教授/菊地 淑人

観光政策・計画という観点から、観光資源を活か した地域づくりを学びます。また、世界遺産をはじ めとした文化・自然遺産の価値評価やマネジメン トを学ぶことで、地域資源を守り、観光等に活か す方策を身につけます。

#### 【観光】観光経営論 I·Ⅱ

#### 教授/田中 敦

訪日観光客の急増など変化が著しい観光につい て、地域とグローバルの双方の視点から幅広い テーマを取扱います。また観光経営等の学修を通 じて、マーケティングや企業経営の基礎知識を実 践的に習得していきます。

## 大学院(修士課程・博士課程)

### 地域食物科学科 ワイン科学特別コース

#### [活躍できる分野・進路] 食品産業・ワイン産業など

# 地域産業が抱える課題に対応できる食品科学のエキスパートを育成

「ワイン科学特別コース」では、ワイン製造をモデルとして食品製造に熱意を持った技術者・研究者を育成します。地域食物科学科の通常カリキュラムに加え、1年次からブドウ・ワインに関する授業を受講し、ワイン科学に関する最先端の知識と技術を学びます。さらに、「ブドウ栽培学実習」「ワイン製造科学実習」の実習科目や、山梨県内のワイナリーでブドウ栽培やワイン製造の現場を体験する「インターンシップ」などを通じて、食品の原料生産から加工までの実践力を養成します。









## 地域社会システム学科 観光政策科学特別コース

#### [活躍できる分野・進路] 観光関連産業・公務員など

## 観光がうみだす新しい価値の探求

観光産業や観光地域づくりの「現場」における学びを重視した教育プログラムを通じて、観光地経営(マネジメント)に関する地域志向型教育を実践し、観光に関する知識・技術・センスを兼ね備えた地域のリーダーとなりうる人材を養成します。

#### ポイント 1

### 地域社会システム学科の科目のなかでも、 観光系の科目を重点的に履修!

観光政策科学特別コースの学生は観光系の科目を重点的に学びます。観光系の科目は、観光政策科学に関する入門科目のほか、観光 資源の保全・活用、観光ビジネス・経営、観光政策など多岐にわたる 専門科目、また、外部講師による特別講義も開講されています。



### 履修を観光政策科学特別コースの学生に限った 学外での実習授業を開講!

観光先進地域などにおける実習授業は観光政策科学特別コースの 学生のみが履修可能!百聞は一見に如かず。観光のリアルな現場か ら得られる知見は観光の学修を深めるうえで欠かせません。









#### 学 部

#### 生命工学科

地域食物科学科 (ワイン科学特別コース)

環境科学科

地域社会システム学科 (観光政策科学特別コース)

#### 大学院(修士課程)

- 生命環境学専攻
- ・バイオサイエンスコース
- ●食物・ワイン科学コース●地域環境マネジメントコース (山岳科学特別教育プログラム)

#### 工学専攻

●流域環境科学特別教育プログラム

生命医科学専攻

#### 大学院(博士課程)

統合応用生命科学専攻

- ●生命農学コース
- ●生命医科学コース
- ●生命工学コース

#### 工学専攻

●環境社会システム学コース

[HP]

http://www.eng.yamanashi.ac.jp/hakushi/

### 生命環境学専攻(修士課程)『食と健康』『生命と環境』に関わる文理融合型の教育と研究

●生命環境学専攻は「生命・食・環境・経営」に関する教育研究を目的としています。自然科学と社会科学の文理融合的アプローチで、人類にとって最も普遍的で重要な「食と健康」および「生命と環境」に関わる諸問題の解決に貢献できるエキスパートを育成します。本専攻には、以下のコースがあります。

#### バイオサイエンスコース

生命科学を基盤とした「食と健康」、「生命と環境」に関する教育研究。

#### 食物・ワイン科学コース

ワインをモデルとしながら科学的に探求し、食品産業を原料生産、加工・販売、安全から経営まで多面的に見渡せる教育研究。

#### 地域環境マネジメントコース

環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政に関する教育研究。

- ●「食と健康」および「生命と環境」に関わる課題を、 社会・経済・行政システムとの関わりでとらえ、自然 科学の知識で理解・分析し、技術革新や政策によっ て解決する意欲をもつ人を求めます。
- ●4つの特別教育プログラム(発生工学技術開発・実践、流域環境科学、先端脳科学、協応行動科学)に参加することもできます。







### 統合応用生命科学専攻(博士課程) 医工農の分野横断的な教育と研究

●統合応用生命科学専攻(博士課程)は平成30年4月に新設されました。修士課程と同様に医工に農学を加え、医工農の分野横断的な教育を展開いたします。 生命環境学部、生命環境学専攻(修士課程)に接続する専攻であり、山梨県で初めての農学系を有した大学院博士課程で、ワインや発生工学など本学の強みを活かした教育を展開し、地域に貢献でき、グローバルに活躍できる人材を養成します。本専攻には以下のコースがあります。

#### 生命農学コース

発酵・食品に関連する複数の学問分野の高度な知識と技術を修得し、食と健康及び環境に関連する産業分野で活躍できる人材を養成。

#### 生命医科学コース

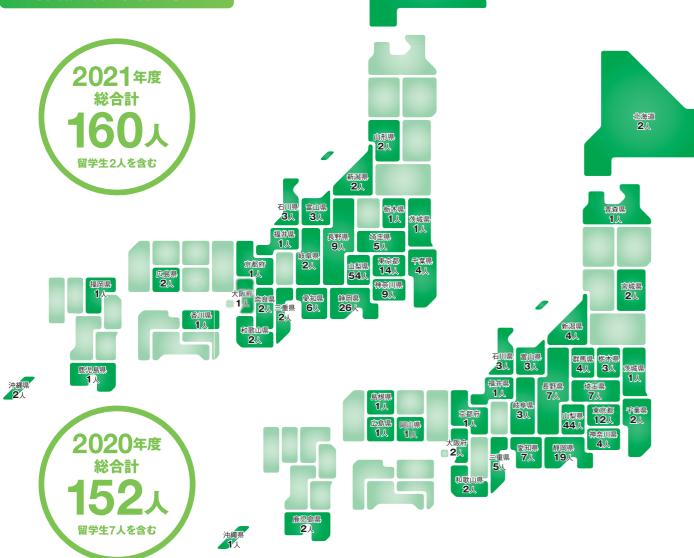
免疫や神経科学等の高度な専門知識と技術を身に 付け、コメディカルなど医療機関等で活躍できる人 材を養成。

#### 生命工学コース

発生工学や周辺の学問分野を含む高度な生命工学の技術と知識を修得し、生殖補助医療、再生医療やバイオ関連産業で活躍できる人材を養成。

# その他の情報

## 出身高校所在県別入学者数



北海道 **1**人

## 2021年度 個別学力検査志願状況

( )内は2020年度の数字

	学科/募集区分		前期日程			後期日程			総合型選抜Ⅱ(2021年度入試より実施)		
			志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率	
	生命工学科	<b>27</b> ( 30)	<b>61</b> ( 76)	<b>2.3</b> (2.5)	5	<b>39</b> ( 72)	<b>7.8</b> (14.4)	3	4	1.3	
生	地域食物科学科	<b>30</b> ( 32)	<b>35</b> ( 63)	<b>1.2</b> (2.0)	5	<b>23</b> ( 48)	<b>4.6</b> ( 9.6)	2	7	3.5	
生命環境学部	ワイン科学特別コース*	<b>13</b> ( 13)	<b>19</b> ( 34)	1. <b>2</b> (2.0)							
	環境科学科	<b>22</b> ( 25)	<b>47</b> ( 81)	<b>2.1</b> (3.2)	5	<b>24</b> ( 34)	<b>4.8</b> ( 6.8)	3	4	1.3	
	地域社会システム学科	<b>40</b> ( 43)	<b>94</b> (122)	2.4(2.0)	5	<b>80</b> ( 53)	<b>16.0</b> (10.6)	3	6	2.0	
	観光政策科学特別コース※	<b>13</b> ( 13)	<b>37</b> ( 30)	<b>2.4</b> (2.8)							
	合 計		<b>237</b> (342)	<b>2.0</b> (2.6)	20	<b>166</b> (207)	8.3(10.4)	11	21	1.9	

※ワイン科学特別コースの人数は、地域食物科学科前期日程の募集人員数と志願者数に、内数として含まれています。
※観光政策科学特別コースの人数は、地域社会システム学科前期日程の募集人員数と志願者数に、内数として含まれています。

## 2019-2020年度進路状況

_	環	132	щ	•
 A P			_	-
		211	_	

学 科	卒業年度	卒業者	進学	就 職	就職先
生命工学科	2020	33	26	6	山梨県庁、都留市役所、浅田レディースクリニック、ノベルズ、日本システムウエア、東京計器インフォメーショ ンシステム
工明工于行	2019	34	25	9	八王子市役所、日本ルナ、安曇野食品工房、日立ソリューションズ・クリエイト、リツビ、理科研、K&Oエナジーグループ、新晃工業、パーソルテンプスタッフ
	2020	35	12	18	長野県庁、石川県庁、福島県庁、AKホースガーデン、麻屋葡萄酒、ハイデイ日高、不二家、ハーベスト、 INGS、トーカン、三生医薬、静岡ビルサービス、モトックス、小山本家酒造、エノテカ、河野酢味噌、栄屋乳業、 高砂香料、モンテ物産
地域食物科学科	2019	30	5	23	農林水産省、東京都庁、警視庁、東京高等裁判所、府中市役所、甲府市役所、一宮市役所、アリエッタエフアンドビー、ファーストストーリー、キャン、成城石井、高瀬物産、システムフロンティア、JA全農兵庫、東京エレクトロン、はくばく、愛知みなみ農業協同組合、全農チキンフーズ、ヴィクセス、日世、キネマシトラス、日本コムシス
環境科学科	2020	30	9	20	国土交通省関東地方整備局、山形県庁、静岡県庁、富士吉田市役所、笛吹市役所、甲府地区広域行政 事務組合消防本部、東海旅客鉄道、静岡銀行、岐阜信用金庫、TOKAIホールディングス、東洋熱工業、エン ビジョンAESCジャパン、ジインズ、日本騰器製薬、サンブリヂリアルエステート、リビングライフ、エイブル、やま なし勤労者福祉会、税理士法人スマッシュ経営、文理学院
2000	2019	29	12	17	NTTファシリティーズ、関電パワーテック、日本製紙クレシア、ソトー、東京セキスイハイム、山梨中央銀行、 KOA、システナ、良品計画、ネクスウェイ、鈴与商事、栗原弁天堂、メイキョー、岩掘電設、たまらんど、イナテック、平和みらい
地域社会	2020	49	1	44	山梨県庁、栃木県庁、鳥取県庁、甲斐市役所、富士吉田市役所、佐倉市役所、一関市役所、沼津市役所、山梨県教育委員会、山梨中央銀行、岐阜信用金庫、日本放送協会(NHK)、明治安田生命保険、フコク生命、三菱食品、NTTコムウェア、マクロミル、白泉社、日商エレクトロニクス、日通商事、遠州トラック、内海造船、大日本除虫菊、東芝キヤリア、日興システムソリューションズ、みらい建設工業、B00M UP、三谷コンピュータ、フォネット、カルク、YSK e-com、山梨トヨタ、いちやまマート、日本赤十字社千葉県支部、ジインズ、BluAge、アルファ、MBM、Wiz、HAMAYA
システム学科	2019	48	0	46	山梨県庁、神奈川県庁、高知県庁、豊橋市役所、岡崎市役所、桐生消防、山梨大学、裁判所(事務官)、日本年金機構、山日YBSグループ、Rec-on、北国銀行、YSKe-com、共信冷熱、CAN不動産、JR東日本システムズ、静岡ガスリビング、オリンパスメディカルサイエンス販売、ミサワホーム甲信、アルファシステムズ、ハヶ岳乳業、日商エレクトロニクス、協和コンサルタンツ、L000P、IIJインターナショナル、フロンティアダイレクト、ライフステージ、博報堂プロダクツ、ワイ・シー・シー、日本食研、かんぽ生命、電通イベントオペレーションズ、アサックス、アスフィール、アイセック、富士急行、HIS、JTBコミュニケーションデザイン、十六銀行、グリーンハウス、NTTレンタル・エンジニアリング

### 生命環境学専攻(修士課程)

コース	修了年度	修了者	進学	就 職	就職先
バイオサイエンス	2020	21	5	15	ニチレイフーズ、扶桑薬品工業、日本ケミファ、シオノギテクノアドバンスリサーチ、神戸屋、スジャータめいらくグループ名古屋製酪、NTTデータ・アイ、日本特殊塗料、三和化学研究所、伯東、ニッポンジーン、ホルス、千代田化工建設、クラステクノロジー、上海合全药业股份有限公司(上海合全薬業株式会社)
コース	2019	20	3	17	国立印刷局、中外製薬工業、AGCテクノグラス、正田醤油、富士レビオ、IQVIA サービシーズ ジャパン、DSP 五協フード&ケミカル、帝国インキ製造、トクヤマデンタル、アルソア本社、タイショー テクノス、ミヨシグループ、WDBココ、CIJ、エフスタイル、エン・ジャパン、ビルドシステム
食物・ワイン科学	2020	14	1	9	独立行政法人製品評価技術基盤機構、三栄源エフ・エフ・アイ、アピ、フジッコワイナリー、安曇野食品工房、黄桜、東海漬物、社会福祉法人サン・ビジョンサンサンワイナリー、グリコ栄養食品
コース	2019	13	0	13	山梨県庁、香川県庁、横浜市役所、月桂冠、エノテカ、十勝大福本舗、軽井沢ブルワリー、はくばく、マンズワイン、アビ、アルソア本社、キリンディスティラリー
地域環境	2020	7	2	3	JA全農(全国農業協同組合連合)、日立産機ドライブ・ソリューションズ、エース
マネジメントコース	2019	9	0	8	日本工営、メタウォーター、ANAシステムズ、平和食品工業、マイナビ、イヌカイスポーツ、大都技研、クラブ ツーリズム

## 工学専攻 (修士課程)

コース	修了年度	修了者	進学	就 職	就職先
流域環境科学	2020	3	0	3	静岡県庁、国際航業、八千代エンジニヤリング
特別教育プログラム	2019	3	0	3	

※流域環境科学特別教育プログラムの進路状況については、生命環境学部卒業生の進路状況のみ記載

## キャンパスライフ

## 関連施設







## 勉学サポート

- ●各学科では、学年ごとにクラス担任が決められていて、学び方・生活などのアドバイスを行っています。
- ●大学での学び方についての授業科目(共生科学や生命環境基礎ゼミなど)があります。
- ●数学・理科などの科目では、高校での勉強の復習から始まる基礎教育を行います。
- ●グループ学習・実習ができ、数学および物理などの個別指導を受けられる学習支援室があります。
- ●附属図書館には、静かな空間で勉強に集中できる「サイレントエリア」、グループでディスカッションできる「ラーニン グ・コモンズ」があります。また、開館時間以外および休館日に館内閲覧・館内資料の文献検索等が利用できる特別使 用(申請が必要)もできます。

## その他のサポート

- ●広報活動などを通じて、保護者・出身高校とのつながりを大事にしています。保護者の方には、毎学期成績表を お送りしています。
- ●キャンパス全域に高速無線LAN設備があり、インターネットが自由に使えます。
- ●キャリアセンターでは、就職に関する様々な情報提供や各種セミナー・ガイダンス・企業説明会の実施、キャリア発達 を支援する個別相談を実施しています。(https://www.career.yamanashi.ac.jp/)
- ●保健管理センターでは、健康診断、医師による診察、保健師等による健康相談・保健相談、けが等の応急処置などを 行っています。(https://health.yamanashi.ac.jp/)
- ●学生サポートセンターでは、悩みごとや困りごとに関する相談やカウンセリング、支援を必要とする学生の修学支援を 行っています。(https://www.sp-needs.yamanashi.ac.jp/)
- ●国際交流センターに、外国人留学生の就学、学生生活の相談に応じる相談室を設け支援を行っています。 (https://www.ciee.yamanashi.ac.jp/)
- ●大学ホームページ「キャンパスライフ」に学生寮、奨学金の情報があります。 (https://www.yamanashi.ac.jp/campuslife/)

様々な相談に応じられるよう連携し、 学生相談の体制を整えています。



#### 学部附属施設



**■ 附属農場** 甲府市小曲町に設置された附属農場は総面積約2.5haの施設で、場内には管理棟(575㎡)、ガラス温室(480㎡)、堆肥舎、人工気象室、植物工場 などの施設ががあります。川梨県の特産果樹であるブドウ・桃に加え、様々な農作物を作付けし、教育・研究に利用してします。また、全学科1年次生 がこの農場で「生物資源実習」を受講し農学の第一歩を踏み出します。

#### 学部教育に協力する研究センター

山梨大学にはいくつかの研究センターがありますが、そのうち発生工学研究センター・ワイン科学研究センター・国際流域環境研究センターの教員が生命環境学部の 教育に参加します。これにより、最先端の研究の成果が教育の中に取り入れられます。



### ■発生工学研究センター

実験動物飼育室、マイクロマニピュレーション室、分子生物学実験室、細胞 培養実験室、細胞イメージング室等からなる研究施設です(2階建て800 ㎡)。この施設では、遺伝子(DNA)、タンパク質、細胞、動物個体の各レベ ルにおいて質の高い実践的な教育研究を行うことができます。



#### ■ワイン科学研究センター

日本をリードするワイン科学を専門に研究するセンターです。60年以上の歴史 があり、日本のワイン科学の教育と研究の拠点になっています。地域食物科学 科の「ワイン科学特別コース」では、ワイン造りに情熱を抱き、ワイン業界を リードできる高度な専門知識と技術を持つ人材を育てます。



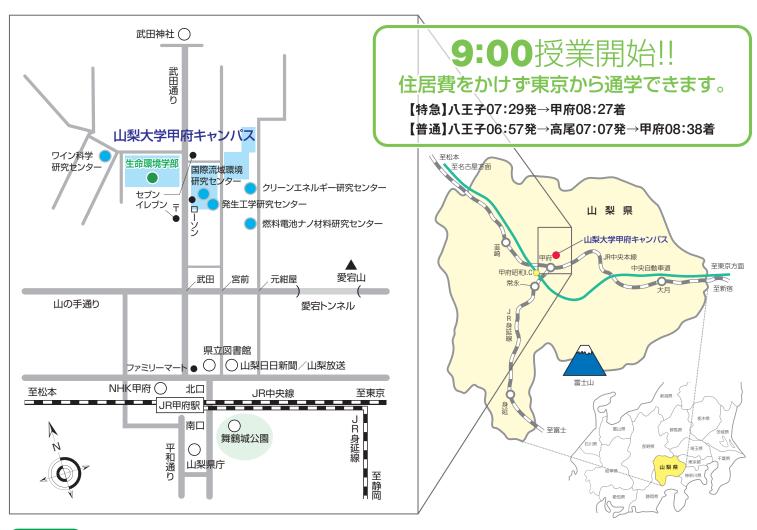


#### ■国際流域環境研究センター

水資源の枯渇、水災害、水環境の悪化、水に起因する病気など水にかかわる問題 に対応するための研究を行っているセンターです。アジアを主として、ヨーロッ パ、オーストラリア、アメリカやアフリカの大学・研究機関と連携し、国際的な研 究と教育(流域環境科学特別教育プログラム等)を行っています。

## 新宿から甲府まで電車で最速83分。意外と近いんです!!

静岡駅から131分。富士駅から104分。岡谷駅から55分。



#### 電車・バス

#### 新 宿⇒甲府駅 都心からだと、最速83分。特急なら乗り換えなし。

- 🚊 JR中央線 特急「あずさ」または「かいじ」で最速83分
- → 新宿駅南口「バスタ新宿」より最速119分

#### 名古屋⇒甲府駅 名古屋からでも、特急に乗ればおよそ3時間。

- ①JR中央線(塩尻駅経由)/塩尻で特急「しなの」から特急「あずさ」に乗り換え ②東海道新幹線・JR身延線(静岡駅経由)/静岡で新幹線「ひかり」から特急「ふじかわ」に乗り換え
- □ JR名古屋駅前バスセンターより約240分

#### 甲府駅⇒甲府キャンパス 甲府駅から、信玄公ゆかりの武田神社を目指して歩くこと15分。

- 📮 甲府駅北口2番バス乗り場より「武田神社または積翠寺」 行き約5分、「山梨大学」下車
- ★ 甲府駅北口より武田通りを北上、徒歩約15分

#### 車

#### → 東 京⇒甲府キャンパス

首都高新宿線から高井戸IC経由で中央自動車道:高井戸IC~甲府昭和IC(高井戸=甲府昭和間約1時間20分、113.2km)で下りて、一般道を北東の方角へ。 国道20号線またはアルプス通り経由で約20分

#### → 名古屋⇒甲府キャンパス

東名高速:名古屋IC~小牧JCT~中央自動車道:甲府昭和IC(名古屋=甲府昭和間約3時間、245.4km)で下りて、一般道を北東の方角へ。国道20号線またはアルプス通り経由で約20分

UNIVERSITY OF YAMANASHI - FACULTY OF LIFE AND ENVIRONMENTAL SCIENCES



## 生命環境学部

TEL.055-220-8803 〒400-8510 山梨県甲府市武田4丁目4-37 https://www.les.yamanashi.ac.jp/



スマートフォン

